

米、高濃度乳房「通知」義務に

乳がん検診で使われるマンモグラフィ（乳房エックス線撮影）でがんが見えにくい「高濃度乳房」の問題を巡り、米食品医薬品局（FDA）が、検査機関に対し、個々の乳房のタイプを本人に一律に通知するよう義務づけることを決めた。自分のタイプを把握できれば、早期発見に役立つとしている。日本でも通知の是非が課題になっており、影響を与えそうだ。

高濃度乳房の人は、マンモ画像では全体が白く写り、同じく白く写るがんが見えにくい。米国では40歳以上の女性の半数を占め、定期的に検診を受けても早期発見できなかったケースが問題視されている。

FDAは、乳がん検診に関する連邦法の規則改正案

FDA 乳がん検診、日本に影響か

をまとめ、一律に通知する義務を盛り込んだ。その意義について「全ての女性が等しく情報を知るべきだ。高濃度乳房の人は、専門家と対策を話し合うべきで、詳細な情報提供はより良い選択につながる」とした。

一方、日本人の高濃度乳房の割合は、欧米より高いとされる。自治体検診では高濃度乳房で結果が判然としない場合も「異常なし」と通知されるケースがあり、患者団体などから「タイプを伝えるべきだ」との声が出ている。

これに対し、国内の関連学会などは、高濃度乳房を病気と誤解される懸念があるなどとして、「一律通知は時期尚早」と提言。厚生労働省も昨年5月、この見解を自治体に通知している。